

副詞モウとマダについての分析 ―スケールを基にした多義性の考察―

宮田瑞穂

日本語の副詞であるモウとマダは、仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』などに指摘されるように、時間関係の副詞として扱われることが多い。しかしながら、飛田良文・浅田秀子(1994)『現代副詞用法辞典』によれば、モウとマダは時間に関わる用法のみではなく、様々な用法を持つ。モウとマダに共通して有る用法としては「この仕事は{もう/まだ}5分かかる」のような数量詞修飾用法があり、その他にモウ単独が持つ「もう嬉しくってたまらない」のような形容詞修飾用法、およびマダ単独が持つ「英語の点数は国語の点数よりまだました」のような比較程度副詞的用法がある。

このようなモウとマダの多義性を統一的にとらえるために、それぞれの用法の背後にはモウとマダが設定する一つのスケールがあると仮定する。モウはそれが付加する要素に対して、その要素が表す否定事態から現在の状態が変化したことを表すスケールを構築する。マダは、同じくそれが付加する要素に対して、その要素が表す否定事態への変化を前提とするスケールを構築する。モウもマダも、付加する要素とその否定事態がかかわるという点で共通しているが、現在の状態が変化後であるか、変化前であるかという点で対立している。

さらに、スコープ内の命題とその否定事態が何を基準にして順序付けされるかはモウとマダは指定しない。その順序付けの基準によって、モウとマダのそれぞれの用法が派生される。順序付けの基準が時間軸であれば、時間関係の副詞としての用法が派生される。また、順序付けの基準が、数量詞の表すスケール(蔡薫婕 2017 「スケール構造を用いた程度修飾・数量修飾の分析」(『日本語の研究』13-2))に沿ったものであれば、数量詞修飾用法が派生される。また、形容詞が持つスケールによって基準付けされる場合は、モウの形容詞修飾用法およびマダの比較程度副詞的用法が派生される。このように、本発表ではモウとマダの様々な用法を、単一のスケールを設定することによって統一的にとらえることが可能であることを示す。